KONAN GAKUEN

令和6(2024)年度 事業報告書

学校法人 甲南学園

甲南大学
甲南高等学校・中学校

CONTENTS

はじめに 1

KONAN GAKUEN 2024 HIGHLIGHT 2

Ⅰ.令和6(2024)年度の学園総括

1. 令和6(2024)年度予算編成方針の達成状況 3
2. 施設・設備への資金配分状況 3
3. 学園の経営状況 4
4. 令和6(2024)年度決算の概要 5

Ⅱ.法人の概要

1. 甲南学園のあゆみ 6
2. 役員一覧 7
3. 設置学校・教育研究組織 8
4. 事務組織 9
5. 教職員数 10
6. 土地と建物 10

Ⅲ.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020～2025)の推進 11
2. 大学 14
3. 高等学校・中学校 17
4. 法人 19

Ⅳ.財務の概要

1. 財務の概要について 20
2. 資金収支計算書 20
3. 事業活動収支計算書 21
4. 貸借対照表 22
5. 財務比率の推移 23

Ⅴ.基本データ

1. 学生数・生徒数 25
2. 留学者数 25
3. 入学試験状況 26
4. 学位授与数 27
5. 卒業生累計数 27
6. 卒業生の就職状況 27

はじめに

理事長ご挨拶

学校法人甲南学園
理事長 長坂 悦敬

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園の歴史は、
大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開校にさかのぼります。
甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生釟三郎は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル
有志ノ者共ガ集リマシテ
知育偏重ノ弊ヲ避ケ
「人格ノ修養」、「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベキ
知的教育ヲ施サン」
トスル主旨ヲ以テ創立イタシマシタ
甲南高等学校完成式及第一回卒業証書授与式／大正15(1926)年

と述べています。
本学園は、今後も、この気概と品格ある建学の精神をもとに、
教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
本学園の令和6(2024)年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の事業概況を報告申し上げます。

令和6(2024)年度は、「甲南学園中期計画(2020～2025)」5年目にあたり、多岐にわたる事案を教職員一丸となって進捗させた1年となりました。

大学では、令和6(2024)年4月にグローバル教養学環“STAGE”を開設し、1期生を迎え、社会の第一線で活躍するグローカル人材の育成を目指した教育課程が始まりました。また、進化型理系構想において、令和8(2026)年度の改組等の再編に向けた各種計画を進めるとともに、設置構想中の理工学部「環境・エネルギー工学科」、「宇宙理学・量子物理工学科」、「物質化学科」や理系新棟「SCIENCE JUNCTION」(新15号館)の訴求活動を開始。令和7(2025)年3月には、学科新設記念 進化型理系シンポジウム「未来をつくる高度理系人材養成の最前線」を開催し、慶應義塾長の伊藤公平氏による基調講演や、本学の教員らを交えたパネルディスカッションを実施しました。研究力強化の観点では、「甲南新世紀戦略研究プロジェクト(第Ⅰ期)」に採択された3つの研究プロジェクトが始動、また特定研究プロジェクトとして「甲南デジタルツイン研究所」も立ち上がりました。

高等学校・中学校では、「アドバンスト・コース」を改編した「メインストリーム・コース」に1期生を迎え、多様化する社会で必要とされる「ジェネリックスキル」をキーワードに、大学との連携を深めながら、10年一貫教育による健全で良識を備えた社会で活躍する人物の育成が開始されました。

法人、学園全体での取組みでは、キャンパス・グランドデザイン、情報化、広報等の機能別横串戦略、学園中期計画推進のためのCFT(クロスファンクショナルチーム)、専任職員一人ひとりが業務改善に取り組む「iプロジェクト」等、これまで活動を進めてきた様々な取組みにおいて多彩な成果が創出されました。

本学園は、創立者平生釟三郎の哲学「平生フィロソフィ」のもと、「共働互助」の精神で、「常ニ備ヘヨ」を意識し、「正志く 強く 朗らかに」学園運営の安定化を図り、「人物教育のクオリティ・リーダー」として社会から評価され、さらに輝く学園になるために、これまで同様、これからも力強く歩み続けます。
今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

HIGHLIGHT 1

■ グローバル教養学環“STAGE”始動

社会の第一線で活躍するグローカル人材の育成に向けて、令和6(2024)年4月に甲南大学「グローバル教養学環“STAGE”」(以下、STAGE)を設置し、1期生として入学することになった24名を迎えいれ、STAGEの学びが始動しました。

“STAGE”は、「Special Track for Accelerated Global Education」の頭文字をとった略称で、グローバルキャリアを志す1学年定員25名のための特別な学位プログラムです。複数の言語圏での留学や生活を経験する「ダブル留学」等、特色ある学びを通じて、異文化に対する理解、国際社会と地域社会の双方における課題解決に必要なグローバル教養を身につけ、社会の第一線で活躍できる人物の育成を目指します。

入学した1期生は、STAGEを指導する教員陣とともに、STAGE演習や神戸でのフィールドワーク、ハワイ大学マノア校(米国)やフォート・ルイス大学(米国)との国際オンライン協働学習の経験を経て、一部の学生が令和7(2025)年2-3月から欧米、アジア圏への留学を開始しました。

■ 「Global Connecting Passage」での授業

■ 1年次は複数言語圏へのダブル留学に備えて学ぶ

HIGHLIGHT 2

■ 進化型理系構想の推進

甲南大学の特色ある研究力を活かし、理学と工学の学びにより、「グリーン」「デジタル」「マテリアル」「宇宙・量子技術」「バイオ」等の成長分野を担う理工系人材の育成を強化するため、理系3学部(理工学部・知能情報学部・フロンティアサイエンス学部)および大学院研究科を進化させる「進化型理系構想」を推進。進化型理系シンポジウム、オープンキャンパスでの特設イベントや特設ウェブサイトの開設等学外に向けたPRも開始しました。

また、この構想の中心となる「令和5(2023)年度 大学・高専機能強化支援事業」に選定された理工学部新学科「環境・エネルギー工学科」の新設に加え、「宇宙理学・量子物理工学科」、「物質化学科」への改組等の令和8(2026)年度の理工学部再編に向けて、文部科学省への届出準備を進めました(いずれも設置構想中)。

■ 進化型理系構想のPRを開始

■ オープンキャンパス 特設イベント
「SCIENCE & TECHNOLOGY WORLD」の様子

1. 令和6(2024)年度予算編成方針の達成状況

(1) PDCAサイクルを踏まえた事業計画・予算編成の状況

学園中期計画を踏まえ各部局が作成した事業計画書、予算申請書に基づき予算ヒアリングを行い、当該プロジェクトの実績や今後の見通しを中心に質問する等、学園中期計画と事業計画、予算の連動、PDCAサイクルを意識した予算編成を行いました。

(2) 人物教育率先・教育力の甲南を推進する直接的な教育プログラムに対する予算措置の状況

「KONAN U.VISION 2025」を実現するための教学新機軸を支える各学部での独自の取組みやKONANプレミア・プロジェクトに対して予算措置をしました。

(3) 事業活動収支差額比率の目標

事業活動収支差額は、補正予算時には0.1%を見込んでいましたが、経常経費の見直し等によって、決算時には3.9%となり、収支を好転させると同時に当初目標を達成しました。

(4) 在籍目標者数の堅持と補助金獲得

大学における在籍者数は収容定員を満たしており、高等学校・中学校においても概ね収容定員通りの在籍者数を堅持しています。補助金収入については補正予算額に対して0.2億円増加し、19.4億円となり、前年度と比較すると0.1億円の減少となりました。

(5) 経常的な経費の予算編成見直し

学園中期計画を大きく動かし、情報化・広報等の機能別横串戦略を進めるため、経常的な経費の見直しに継続的に取組みました。教育の質向上等の将来投資につなげるために経常収支差額の均衡を目指し、事業活動支出の割合は同収入の99.0%を堅守する予算を編成しました。

(6) 第2次KONANプレミア・プロジェクトに係る支出の状況

66のプロジェクトに対して、合計1.1億円の支出となりました。

(7) 甲南新世紀戦略研究プロジェクトに係る支出の状況

甲南新世紀戦略研究プロジェクトが始動し、採択されている3プロジェクトに対して、人件費支出0.2億円、教育研究経費支出0.5億円(光熱水費および施設管理費を除く)、施設・設備関係支出0.6億円の合計1.3億円の支出となりました。

(8) 学園中期計画推進のためのプロジェクトに係る支出の状況

「KONANクオリティプラス・プロジェクト」で0.3億円、「つながる学園プロジェクト」で0.2億円、「KONAN-DXプロジェクト」で0.4億円の支出となりました。

(9) 人件費および委託業務費の状況

退職金を除いた人件費支出は73億円、委託業務費支出は20.1億円となりました。

2. 施設・設備への資金配分状況

大学関係　施設:941,436千円　設備:425,225千円
高中関係　施設:　99,864千円　設備:　　5,704千円

区分	概要(主なもの)
大学関係	・15号館新築工事設計および管理業務(建設仮勘定) ・10号館1階・3階 改修工事 ・六甲アイランド南グラウンドハードテニスコート改修工事 ・岡本キャンパス本校地非常放送設備用配線工事
高等学校・中学校関係	・高中講堂2階・3階 改修工事 ・高中校舎～講堂棟高圧ケーブル更新工事

3. 学園の経営状況

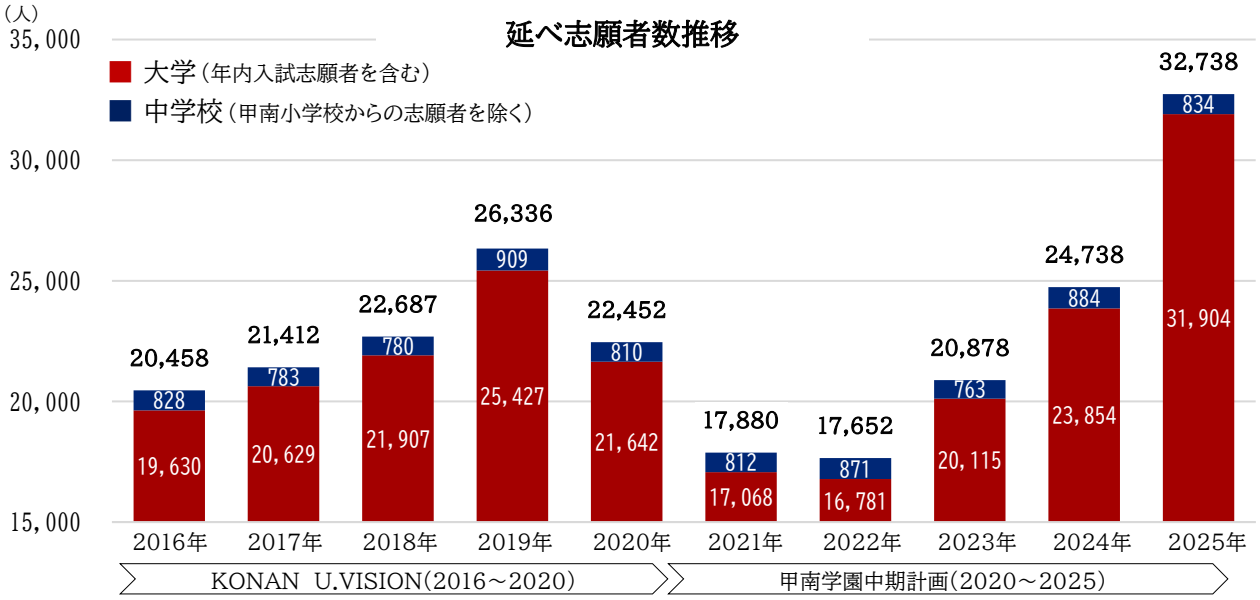
(1) 大学および高等学校・中学校の入学志願者数

日本私立学校振興・共済事業団の「入学志願動向調査」によると、令和6(2024)年度に「入学定員未充足」となった私立学校は、大学が59.2%(598校中354校)で前年度より5.9ポイント上昇し、定員割れの大学が増加傾向にあります。また高等学校では、15歳人口が前年度より0.7%減少し、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数がそれぞれ減少となり、定員割れの高校が71.5%(1,293校中925校/前年度より2.3ポイント上昇)となりました。このように私立学校を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。

この状況下において、甲南大学では一般選抜入学試験における日程変更等の入試制度改革を行い、令和7(2025)年度の一般選抜入学試験(共通テスト利用型含む)志願者数が延べ25,381名(前年度比137.0%)となり、また年内に実施する公募制推薦入学試験(教科科目型)においても、志願者数が5,227名(前年度比126.6%)と大きく増加する結果となりました。

また、甲南高等学校・中学校において、中学校入試の延べ志願者数は、前年度884名から834名(甲南小学校からの志願者27名除く)となり、前年度比94.3%ながら、男子校として非常に健闘していると言えます。

なお、高校入試は、専願制として実施しており、約25名を募集し、志願者数は22名となりました。



(2) 私学助成の取得状況

私学助成は、急速な少子化の進行を踏まえて、教育条件の維持向上等を図るとともに、改革に取り組む私立大学等を重点的に支援することを目的としたメリハリある配分が実行されている状況にあり、今後さらに私学助成獲得に関する競争要因が高まっていくことが留意されています。

甲南大学では、自らの特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援する文部科学省 令和6(2024)年度私立大学等改革総合支援事業において、4項目中2項目(タイプ2「特色ある高度な研究の展開」およびタイプ3「地域社会の発展への貢献」)が選定され、初めてタイプ2に採択されました。また、令和6(2024)年度の私立大学等経常費補助金額は、約9.7億円(588校中64位)であり、うち教育改革や研究高度化に資する取組みに対して上乗せされる特別補助金額は、約1.4億円(588校中37位)となっており、相対的に高い水準を維持しています。

(3) 科学研究費の採択状況および外部資金の取得状況

日本学術振興会より有望な研究計画に付与される令和6(2024)年度科学研究費における甲南大学の採択状況は、81件・約1.9億円(継続を含む研究代表者分のみ)であり、継続して高い水準を維持しています。

なお、研究活動の実用化指標となる産業界等からの奨学寄附金等の外部資金による研究助成額も過年度と比較して増加傾向となっています。

(4) 大学卒業生の就職状況、高校卒業生の大学進学実績

令和6(2024)年度の大学卒業生の就職率(内定者数/就職希望者数)は、全国平均98.0%を上回る98.9%(前年度比0.4%増)であり、過年度から継続して高い水準を維持しています。実就職率(就職者数/(卒業生数－大学院進学者数))は、92.6%(前年度比1.8%増)となりました。

高等学校の令和6(2024)年度卒業生において、甲南大学への進学者数は、89名でした。その他、国公立大学に15名(うち医歯薬獣医系学科に3名)、本学以外の私立大学に76名(うち早稲田・慶應義塾・上智大5名、医歯薬獣医系学科に3名)、海外の大学に4名が進学しています。

4. 令和6(2024)年度決算の概要

(1) 事業活動収支の概要について

① 基本金組入前収支差額

予算編成方針において経常収支差額の均衡を掲げ、補正予算では事業活動収支差額比率0.1%の基本金組入前収支差額(0.2億円)を目指していましたが、決算額は収入合計158.1億円に対して支出合計151.9億円、基本金組入前収支差額6.1億円となり、事業活動収支差額比率は3.9%と好転し、当初目標を上回りました。

② 各設置校の財政的自立

大学および本部は6.2億円、高中は△0.05億円の収支差額となり、補正予算の見込みより好転しました。

(2) 資金収支の概要について

事業計画実施時の効率・効果的な予算執行に努めたこと、減価償却相当額18.2億円を留保したことにより、再投資資金は24.3億円となり、施設・設備関係支出にかかる14.7億円を差し引いたキャッシュフローは9.6億円となりました。

(3) 資金収入の概要について

① 学生生徒等納付金収入

補正予算額 115.8億円に対して0.1億円増加し、115.9億円となり、前年度と比較すると3.3億円の増加となりました。

② 補助金収入

補正予算額19.2億円に対して0.2億円増加し、19.4億円となり、前年度と比較すると0.1億円の減少となりました。

(4) 資金支出の概要について

① 人件費支出

年度途中退職者や育児休業者等の増加により、補正予算額77.5億円に対して0.3億円減少した77.2億円となりました。私学共済掛金および雇用保険料率の増加に伴い、法人全体の所定福利費は増加傾向にあり、社会保険料率が増加することに伴う学校法人負担額の増加が懸念されます。

② 教育研究・管理経費支出、施設・設備関係支出

補正予算額72.7億円から3.4億円減少し、69.3億円となりました。これは、大学における教育研究経費支出が5億円の減少、管理経費支出が2.8億円の増加および施設・設備関係支出が1.1億円減少したことが主な要因です。

1. 甲南学園のあゆみ

創立者 平生 釟三郎

平生釟三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建する等実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立等社会事業にも深く関わり、政治においては、廣田弘毅内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。

また、甲南幼稚園、甲南小学校、甲南中学校、甲南高等学校を創立したほか、私費による育英事業「拾芳会」を立ち上げる等、教育にも熱意を注ぎ続けました。

建学の精神

「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させる」

大正7(1918)年	12月	財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
大正8(1919)年	4月	私立甲南中学校開校
大正12(1923)年	4月	七年制甲南高等学校開校
昭和23(1948)年	4月	新制甲南高等学校開校
昭和26(1951)年	4月	甲南大学開学、文理学部設置
昭和27(1952)年	4月	経済学部増設
昭和32(1957)年	4月	文理学部を文学部と理学部に分離
昭和35(1960)年	4月	法学部・経営学部増設
昭和38(1963)年	4月	高等学校・中学校が神戸市東灘区岡本から芦屋市に移転
昭和39(1964)年	4月	大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
昭和40(1965)年	4月	大学院社会科学研究科増設
平成3(1991)年	4月	トゥレーヌ甲南学園(後にフランス甲南学園トゥレーヌに校名変更)高等部・中等部を開校
平成13(2001)年	4月	理学部を理工学部に名称変更
平成14(2002)年	4月	経済学部・経営学部にEBA総合コースを開設(平成25(2013)年4月廃止)
平成15(2003)年	11月	先端生命工学研究所(FIBER)設置
平成16(2004)年	4月	大学院法学研究科(法科大学院)増設(令和5(2023)年10月廃止) フロンティア研究推進機構を設置
平成18(2006)年	4月	大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設 (平成25(2013)年4月会計専門職専攻として社会科学研究科のもとへ移設、平成28(2016)年3月廃止)
平成20(2008)年	4月	知能情報学部増設
平成21(2009)年	4月	マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス開設) 先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設(ポートアイランドキャンパス開設)
平成25(2013)年	3月	フランス甲南学園トゥレーヌ閉校
平成28(2016)年	4月	白川台キャンパス(愛称:コスモスキャンパス)を開設
平成29(2017)年	9月	KONAN INFINITY COMMONS(愛称: iCommons)が竣工
平成31(2019)年	4月	学園創立100周年記念式典を挙行
令和2(2020)年	4月	全学教育推進機構を設置
令和4(2022)年	4月	社会連携機構を設置
令和5(2023)年	4月	学生支援機構を設置
令和6(2024)年	4月	グローバル教養学環(STAGE)を設置

2. 役員一覧(令和7(2025)年3月31日現在)

理事

長坂 悦敬	(理事長)
中井 伊都子	(常任理事 甲南大学長)
山内 守明	(常任理事 甲南高等学校・中学校長)
廣川 晶輝	(甲南大学文学部長)
町田 信也	(甲南大学理工学部長)
石川 路子	(甲南大学経済学部長)
金丸 義衡	(甲南大学法学部長)
髙室 裕史	(甲南大学経営学部長)
市川 典男	
片山 勉	(副理事長)
高 龍秀	(常任理事 甲南大学副学長)
立野 純三	
薬袋 真人	(常勤)
村嶋 貴之	(常任理事 甲南大学副学長)
山田 純嗣	
伊藤 勲	
稲垣 嗣夫	(常任理事)
大西 英之	(常勤)
具 英成	
小西 新右衛門	
杉山 健博	
角 和夫	
平野 欽一郎	(専務理事)
村津 敬介	(常任理事)
米田 壯	(常任理事)

監事 定数2～3名 現員2名

植村 武雄	
池田 芳則	(常勤)

役員賠償責任保険制度への加入状況

私立学校法に従い、理事会決議により、令和5(2023)年6月1日から会社役員賠償責任保険に加入しています。

1. 被保険者
   ・記名法人・・・・・学校法人甲南学園
   ・個人被保険者・・・理事、監事
2. 補償内容
   ・記名法人に関する補償
   法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
   ・個人被保険者に関する補償
   法律上の損害賠償金、争訟費用等
3. 支払い対象とならない主な場合
   法律違反に起因する対象事由等
4. 保険期間中総支払限度額
   5億円

評議員

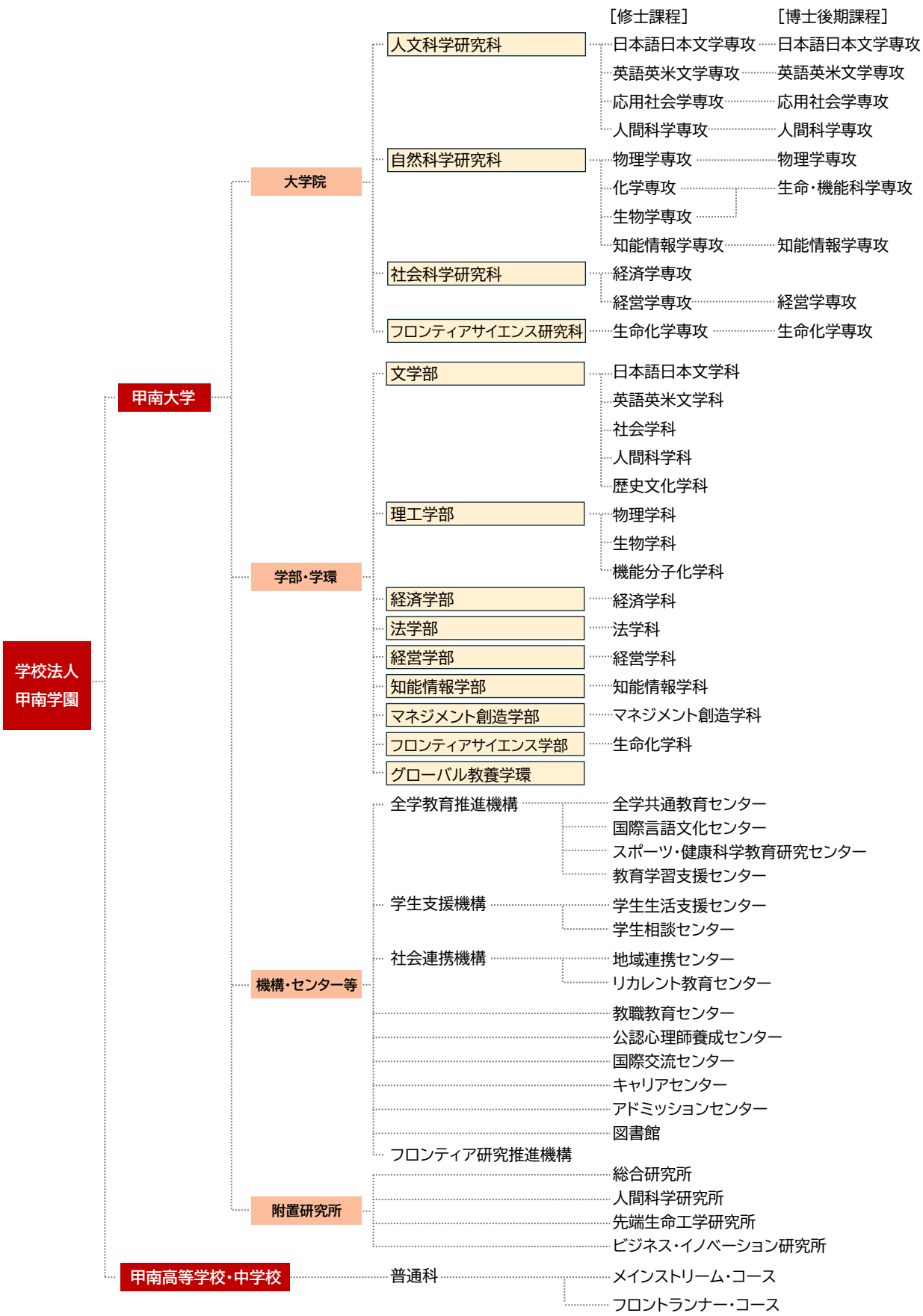
秋宗 秀俊	(学内)	平野 欽一郎	(学内)
笹倉 香奈	(学内)	中井 伊都子	(学内)
佐藤 泰弘	(学内)	山内 守明	(学内)
寺尾 建	(学内)	廣川 晶輝	(学内)
渡邉 順司	(学内)	町田 信也	(学内)
天野 裕介	(学内)	石川 路子	(学内)
石野 牧生	(学内)	金丸 義衡	(学内)
小花 直樹	(学内)	髙室 裕史	(学内)
谷向 豊	(学内)	審良 和哉	
林 正樹	(学内)	稲山 広幸	
足立 恵英	(学内)	宇保 隆	
山田 聡	(学内)	江口 毅	
衣斐 茂樹		松本 孝一	
奥田 兼三		橋本 良子	
小倉 宏之		丸山 泰	
片山 勉	(学内)	安西 敏三	
佐藤 茂		市川 典男	
白石 朋康		上島 一泰	
杉山 洋一		佐々木 良太郎	
立野 純三		佐藤 治正	
道満 善弘		高 龍秀	(学内)
松井 佐一郎		西 周一郎	
丸谷 昭博		平生 誠三	
薬袋 真人	(学内)	細谷 俊雄	
和田 直哉		村嶋 貴之	(学内)
稲垣 嗣夫		山下 英久	
長坂 悦敬	(学内)	山田 純嗣	

理事
学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」、「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

監事
監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査すること等が主たる職務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることもその職務とされています。監事は、評議員会の同意を得て理事長が選任します。また、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

評議員
評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

3. 設置学校・教育研究組織(令和7(2025)年3月31日現在)



4. 事務組織(令和7(2025)年3月31日現在)

※上記のほか、理事長直属の監査部を置く

関連会社
株式会社甲南学園サービスセンター
(ホームページ)http://www.konan-isc.co.jp/index.html

5. 教職員数(令和6(2024)年5月1日現在)

■ 大学教員

所属 / 職名	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	マネジメント創造学部	フロンティアサイエンス学部	フロンティアサイエンス研究科	全学共通教育センター	学長直属	合計
教授	41	27	15	20	19	12	8	10		25		177
准教授	4	7	2	4	2	5	8	4	3	8		47
講師	6		2	1		2				1		12
助教		1										1
特任等	2	1	4	1	2		2	1		16	1	30
小計	53	36	23	26	23	19	18	15	3	50	1	267

■ 高等学校・中学校教員

	校長	教諭	契約・任期付	養護教諭	司書教諭	合計
教員	1	49	6	1	1	58

■ 職員

	専任	嘱託	その他	合計
職員	165	41	101	307

6. 土地と建物(令和7(2025)年3月31日現在)

	大学	高等学校・中学校	その他	合計
土地面積	194,978.81㎡	45,791.00㎡	5,844.00㎡	246,613.81㎡
建物面積	144,045.31㎡	18,944.16㎡	3,646.65㎡	166,636.12㎡

■ 主なキャンパスや施設

岡本キャンパス
(兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1)

西宮キャンパス
(兵庫県西宮市高松町8-33)

ポートアイランドキャンパス
(兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20)

白川台キャンパス
(兵庫県神戸市須磨区東白川台5-6)

六甲アイランド総合体育施設
(兵庫県神戸市東灘区向洋町中8-2)

甲南高等学校・中学校
(兵庫県芦屋市山手町31-3)

甲南大学平生記念セミナーハウス
甲南学園平生記念館
(兵庫県神戸市東灘区住吉本町2-29-15)

ネットワークキャンパス東京
(東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10F)

1. 甲南学園中期計画(2020～2025)の推進

本学園は、3つの学園スローガン(「人物教育率先」の進化/世界に通じる「KONANクオリティ」/地域社会と朗らかに「つながる学園」)を掲げ、令和2(2020)年度を開始年度とする6ヶ年の「甲南学園中期計画(2020～2025)」の推進および学校運営に取り組んでいます。

(1) 進捗管理

進捗管理表を用いて、年度単位、月次単位でアクションプランごとに進捗状況を記載し、学園本部会議や理事会等の諸会議において学園全体で進捗を確認する活動を継続しています。

また、定量的な分析、評価のため、学園中期計画におけるKGI、KPIをまとめたダッシュボードを作成しています。ダッシュボードの数値指標を継続的に確認しながら、大学のビジョン「KONAN U.VISION 2025」や高等学校・中学校の将来構想も含めた本学園の中期計画全体を推進しています。

(2) 機能別横串戦略

複数の組織に関係する重要な機能に対して、改善するべき課題を洗い出し、全体最適化や組織横断活動を推進するため、機能別横串戦略の策定および戦略に基づく施策の検討・実施を行っており、令和6(2024)年度は、主に次の取組みを行いました。

① 情報化戦略 (令和3(2021)年11月 理事会で承認、策定)

インシデント発生時に学園のシステム、データの障害、破損状況を正確に把握し、学園主要業務への影響を最小限に抑え、迅速に復旧することができる仕組み・対応案を構築するため「甲南学園ディザスタ・リカバリ計画」を策定しました。また、情報システム基盤グランドデザインのアクションプランを検証し、令和7(2025)年度実施プランの方針を確認しました。

② 広報戦略 (令和4(2022)年5月 理事会で承認、策定)

広報戦略会議のもとに設置されている「広報作業部会」を中心に、「進化型理系構想」や全学の広報トピックスを集約し、学内共有を図るとともに広報活動の全体最適化を推進しました。令和6(2024)年12月には、キッズフェスティバルやSDGsマルシェ、リサーチフェスタ等の複数の部署やチームがそれぞれ実施するイベントを「KONAN EVENT MONTH」としてPRし、合計で約4千人が本学開催のイベントに参加いただきました。

③ キャンパス・グランドデザイン (令和4(2022)年5月 理事会で承認、策定)

岡本キャンパス10号館の改修を実施し、3階ゼミ室の再整備、1階プロジェクトルームの設置、研究・教育成果の発信を行う「知のギャラリー」と、学生の開放的なラーニングコモンズ「知のラウンジ」から構成される新施設「i Entrance」を整備しました。また、岡本キャンパス西校舎新15号館の建築に向けて既存の15・16号館の解体工事を開始しました。

④ 財政戦略 (令和4(2022)年5月 大学学費の見直し案を理事会で承認)

大学院進学に関する経済的サポートの検討を進め、大学院入学金免除制度の導入を提案しました。また、各機能別横串戦略の諸施策に関する想定経費をとりまとめ、支出シミュレーションを進めました。

⑤ 人事戦略 (令和4(2022)年9月より策定タスクフォースで検討中)

政策人材育成と働き方の制度関連の両面で戦略策定および施策の具現化を進めました。政策人材育成では、「新たな職員職種導入」として、専任職員(総合職)とは異なる「新たな無期雇用職員」の制度導入に向けて取組み、働き方の制度関連では、職員の完全週休2日制(土日祝休み)導入に向けた就業規則関連規程の制定および改正の手続きを行いました。

⑥ グローバル戦略（令和5(2023)年11月 常任理事会承認により設置したグローバル戦略会議で推進）

「正規留学生募集活動作業部会」のもとで、関西地区に加え首都圏での広報活動を展開し、外国人留学生（正規留学生）入試志願者の増加（前年度比約3.6倍の142名）につなげました。また、神戸情報大学院大学と連携協定を締結し、主に日本語教育での連携を進めるとともに、文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」において姫路女学院高等学校と連携協定を締結しました。加えて、職員のグローバル力向上を目指し、「エリアスタディーズ運営参画研修」の制度設計を進めました。

⑦ 社会連携推進施策（令和6(2024)年5月 常任理事会承認により設置した社会連携推進会議で推進）

学園中期計画に掲げる社会と朗らかにつながる構想の具現化および実現に向けた施策を推進するため、甲南学園社会連携推進会議を設置しました（令和6(2024)年5月 常任理事会承認）。

(3) クロスファンクショナルチーム(KONAN-CFT)による活動推進

学園中期計画に関する全学的テーマや課題に対して、組織横断的にメンバーを選出してチームを編成するクロスファンクショナルチーム(KONAN-CFT) を立ち上げ、プロジェクトやタスクフォース、委員会等の活動を推進しています。

[令和6(2024)年度におけるCFTの取組み一例]

① 「KONAN-PLANET」の推進

- 地域社会と朗らかに「つながる学園」プロジェクト(令和2(2020)年7月～継続)

卒業生や地域の方々、教職員同士がつながりを深め、本学の社会的評価向上につなげることを目指して令和3(2021)年度に立ち上げた会員制プラットフォーム「KONAN-PLANET」を充実させ、令和7(2025)年3月末時点で会員数が15,461名になりました。また、「KONAN未来サポーターズ募金」で年間3,000円以上の寄付をいただいた方々を対象とした「KONAN-PLANETプラス会員」は、746名となりました。

また令和6(2024)年度は、スポーツでの学生の活躍が顕著にみられ、KONAN-PLANETを通じて多くの方々に元気と感動が届けられました。

PICK UP

■ サッカー部　天皇杯で
Jリーグのチームに劇的勝利

■ 経済学部　孫田太郎さん
バドミントンプロリーグ入団決定

■ 女子陸上部　4×200mリレー
日本学生新記録を樹立

■ 経営学部　岡本駿さん
プロ野球広島東洋カープドラフト指名

■ 経済学部　當麻颯さん
Jリーグ福島ユナイテッドFCへ加入

■ 経済学部　長田有彩さん
フィギュアスケート全日本インカレ優勝

② 決裁手続きの電子化の推進

- KONAN-DXプロジェクト(令和2(2020)年7月～継続)

「KONAN-DX」をキーワードに、業務/経営/教育/研究におけるDXを推進しています。令和2(2020)年度に取組みを開始した決裁手続きの電子化について、令和4(2022)年度に導入した電子決裁システムの効果を検証しつつ、幅広い決裁類型に対応できる汎用的なフォーマットを導入し、電子化の対象を拡大することで、起案から決裁までのリードタイムの短縮や各種管理コストの削減につながりました。

③ 岡本キャンパス10号館の改修

- キャンパス・グランドデザイン具現化検討タスクフォース（令和4（2022）年10月～継続）、知のエントランス構想タスクフォース（令和6（2024）年10月～継続）

キャンパスグランドデザイン具現化の一環として、タスクフォースで検討した構想をもとに、岡本キャンパス10号館の改修工事を実施しました。3階に新たなゼミナール室、1階に新たな講義室、プロジェクトルームを整備するとともに、1階に本学の研究・教育成果の発信が行われる「知のギャラリー」と、学生の創造的な学びの場となる「知のラウンジ」から構成する「i Entrance」を整備しました。

■ 10号館1階に整備した「i Entrance」

■ 「知のラウンジ」（1階）の様子

■ 講義室（1階）を改修

■ プロジェクトルーム（1階）を整備

■ ゼミナール室（3階）を改修

（4）内部統制の実施状況

① 私立学校法改正に伴う各種の体制整備

私立学校法改正への対応として理事・評議員の定数見直し、理事選任会議の設置等を盛り込んだ「学校法人甲南学園寄附行為」の変更を行いました。また、内部統制システム整備の一環として、「甲南学園内部統制システムの基本方針」を策定のうえ、理事会・常任理事会・評議員会の役割・権限等の明確化、リスク管理体制の強化、文書・機密文書の管理体制の強化等を行いました。

② 教学ガバナンスの強化

各学部・研究科の現状と今後の計画や構想、これに伴う教員人事の計画について、引き続き学園本部会議および理事会で審議しました。また、本学教員としての立場で学外からの委員等の委嘱・派遣・兼職を受諾する際の決裁手続き等について、全学的な統一ルールを整理しました。加えて、内部統制システム整備の観点から、組織横断的に規程の見直しを行い、附置研究所の運営体制の統一化や特任教員の職務の明確化を行いました。

③ 危機管理体制の強化

全学的なリスク管理体制に基づき、令和5（2023）年度に策定したリスク対応計画に基づく重点リスク対応策の実施、実施状況の点検を行いました。対応策の実施の一つとして、大規模地震発生時の初動対応マニュアルの拡充を行うとともに、大規模地震・火災の発生を想定した防災・避難訓練において、学生・留学生・教職員への安否確認の訓練配信や初動対応マニュアルに基づく災害対策本部の動きのシミュレーションを行いました。

④ 部局・プロジェクト成果発表会の開催

部局・プロジェクト毎に「部局・プロジェクト事業報告書」を作成し、「部局・プロジェクト成果発表会」を実施しました。「甲南学園中期計画ダッシュボード」のKGI、KPI等への影響・貢献度や、「KONANクオリティ・プラス」プロジェクトで掲げた目標の達成度を確認し、次年度の活動計画に反映しました。また、完了した3つのプロジェクトの成果を称え、プロジェクトメンバーへの表彰を行いました。

⑤ 「KONAN-PDCAシート」による効率的なPDCAとガイドラインによる理解促進

学園単年度PDCA、教学PDCA（内部質保証PDCA）、学園中期計画の進捗管理、業務標準化SDCA等、学内に複数存在するマネジメントサイクルに用いる様式を一本化した「KONAN-PDCAシート」において、効率的なPDCAを推進しました。また、「KONAN-PDCAサイクルガイドライン」による学内PDCAサイクルへの理解促進と各サイクルの点検を継続しました。

2. 大学

学園中期計画のもとで令和3(2021)年度に策定した「KONAN U.VISION2025」達成のための6つの教学新機軸に沿った取組みを実施しました。また、大学全体および各学部等のアクションプラン推進にあたって、令和3(2021)年度から展開する「第2次KONANプレミア・プロジェクト」を令和6(2024)年度も継続し、66のプロジェクトを編成し、実施しました。

[令和6(2024)年度における主な取組み]

(1) 教学新機軸Ⅰ | 質の高い教育基盤の確立

① 学位のオープンバッジの発行

学生等の学びの成果を可視化し、就職活動におけるデジタル上の履歴書としての活用等が可能になるよう、令和5(2023)年度に導入した国際標準規格に則って発行されるデジタル証明「オープンバッジ」の活用を拡大し、令和7(2025)年3月卒業生から学位のオープンバッジ発行を開始しました。

■ 学位のオープンバッジ

② KONAN サーティフィケイトの推進

「人物教育率先」の理念に基づき、成績評価に表れづらい、正課外の活動を中心とした学生の挑戦や熱意ある取組みを評価認定する「KONAN サーティフィケイト」が制度開始から10年目を迎え、挑戦する学生が累計4千名を超えました。また、評価対象の6分野で、新たに183名の学生がサーティフィケイトの認定を受けました。

③ 全学FD・SD研修 「KONAN彩り教育」成果発表会の開催

学生の目的に合わせ、学びを深め、拡張できる甲南らしさを活かした彩り豊かな教育プログラム「KONAN彩り教育」について、本学の特色を表す言葉として定着化を促進するとともに、各学部等で展開する「彩り教育」を発表・共有し合い、今後の魅力あるプログラムの企画立案につなげる全学FD・SD研修 「KONAN彩り教育」成果発表会を令和7(2025)年3月に開催しました。

(2) 教学新機軸Ⅱ | 甲南教育プログラムの発展

① 「KONAN彩り教育」の展開

各学部等で実施する特色ある教育プログラム、全学生対象の副専攻や教職課程、公認心理師養成課程等のダブルメジャー・サブメジャーを展開しました。

[PICK UP / 各学部等の特色ある教育プログラム]

(経営学部)

専門的な会計実務教育に意欲を持つ学生に応えるために、大原簿記学校神戸校と連携し、「ビジネスリーダー養成プログラム アカウンティング・プラクティカルコース」等の会計実務教育を展開。令和6(2024)年度 卒業生(令和3(2021)年入学)のうち、61%が日商簿記3級を取得、35%が日商簿記2級を取得する結果となりました。

(法学部)

国家公務員や地方公務員、さらには法律資格(司法書士や行政書士等)の取得を目指す学生のために「公共人材養成プロジェクト」を実施。令和6(2024)年度は、本プロジェクトから16名が公務員試験(国家公務員・地方公務員)に合格しました。

[PICK UP /ダブルメジャー・サブメジャー]

(公認心理師養成課程)

公認心理師養成課程を修了し、公認心理師等養成大学院に進学した卒業生5名が第8回公認心理師国家試験(令和7(2025)年3月)に合格する等、本学卒業生の公認心理師国家試験合格率が、第8回で83%、第7回で90%とそれぞれ全国平均(第8回67%、第7回76%)を上回る実績となりました。

(教職課程)

教職課程を修了し、令和6(2024)年度に89名の学生が教員免許状(中学校・高等学校)を取得しました。
(前年度80名/11.2%増)

② 進化型理系シンポジウム
「未来をつくる高度理系人材養成の最前線」の開催

■ パネルディスカッションの様子

令和7(2025)年3月8日に、理工学部学科新設を記念し、進化型理系シンポジウム「未来をつくる高度理系人材養成の最前線」を開催しました。慶應義塾長の伊藤公平氏による基調講演や、本学の教員らを交えたパネルディスカッションを実施し、イノベーションで創造する未来を見据え、私立大学として成長分野に貢献する理系人材の在り方について議論を深めました。

(3) 教学新機軸Ⅲ｜融合型グローバル教育の浸透と発展

① 海外大学等への派遣

令和6(2024)年度の派遣留学生数は241名となり、前年度の266名から減少しましたが、その中で中長期留学者数が69名(前年度61名)と増加しました。前年度連携協定を締結したオーストラリア・ウーロンゴン大学に奨励留学で2名の学生を派遣することができました。また、経済学部の「彩り教育」の一つであるウィーバー州立大学との「ダブルディグリープログラム」(本学と海外大学で2つの学位を授与するプログラム)に1名の学生が挑戦しています。短期留学プログラムであるエリアスタディーズでは、夏期に、新設のイギリスコース(オックスフォード大)を含む4コース、春期に、新設のベトナムコース(前年度連携協定を締結したダナン大学・ドンア大学を訪問)を含む3コースを実施し、合計92名の学生が参加しました。また、より充実した協定校派遣を実現するため、新たに4校の海外大学と協定を締結し、海外協定校数を51校としました。(新規協定校:米国 フォートルイスカレッジ/西オーストラリア大学/マレーシア国民大学/カナダ SELC College)

■ ダナン大学での歓迎セレモニー

■ ドンア大学生との交流

■ トヨタ岡山ダナン(卒業生経営企業)訪問

② 留学生の受入と国際交流

令和6(2024)年度の受入留学生数は180名と前年度の119名から増加しました。グローバルゾーンの利用者数は、過去最高の19,663名となり、多彩なアクティビティ等も通じて活発な国際交流が行われました。

加えて、外国人留学生(正規留学生)入試の志願者数も142名と過去最高となり、令和7(2025)年度に20名が入学することになりました。また、連携協定を締結した神戸情報大学院大学を修了したアフリカ・ベナン出身の留学生が自然科学研究科博士後期課程に進学する等、キャンパスのグローバル化が進展しました。

(4) 教学新機軸Ⅳ｜地域連携の深化と教育への展開

■ 阪急西宮ガーデンズでの
ナイトピクニック企画

① 地域連携プロジェクトの推進

連携協定を締結する地域の自治体や企業を中心に連携・協力いただき、学生がキャンパスを出て地域のフィールドで学び、活動する地域連携プロジェクトを令和6(2024)年度も多彩に展開しました。マネジメント創造学部では、阪急西宮ガーデンズを運営する「阪急阪神ビルマネジメント株式会社」との連携協定のもと、学生有志が中心となり、令和6(2024)年10月に阪急西宮ガーデンズで、ナイトピクニックイベントを開催しました。

■ グローバルリテラシー教育プログラム

■ 金融リテラシー教育プログラム

② リカレント教育の推進

マルチステージ型キャンパスの実現に向けて、2つの新たなリカレント教育プログラムを含む以下の4プログラムを開設し、合計160名のリカレント履修生が受講しました。また、第2回リカレント海外研修（ベトナムの都市ダナン）を実施し、11名のリカレント履修生が参加しました。

［令和6（2024）年度 履修証明プログラム］
- ・人生100年時代の学びプログラム（5コース）
- ・ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム
- ・ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム［拡張プラン］
- ・グローバルリテラシー教育プログラム【令和6（2024）年度新設】
- ・金融リテラシー教育プログラム【令和6（2024）年度プレ開講】

（5）教学新機軸Ⅴ｜世界に通じる特色ある研究力の活用と展開

① 新世紀戦略研究プロジェクト、特定プロジェクト研究所の展開

最先端で甲南らしい特色ある研究からイノベーション創出等社会の発展に大きく寄与する取組み、および地域に根差し、その課題解決をリードしていく甲南らしい特色ある研究から地域の経済・社会・雇用・文化等の発展・深化に大きく寄与する取組みに助成を行いました。そして、本学の研究力の向上および教育への浸み出しを目的とした「甲南新世紀戦略研究プロジェクト」を令和6（2024）年度から開始し、第Ⅰ期（令和6（2024）年度～令和9（2027）年度）に採択されたエネルギー変換材料研究所、ナノ材料工学研究所、先端生命工学研究所による研究プロジェクトを展開しました。

また、新たな特定プロジェクト研究所として、「甲南デジタルツイン研究所」を設置しました。デジタルツイン上で人を中心としたAI・VR・ロボットの研究や輸送経路の最適化を行い、デジタルツインにおける配送技術等のロジスティックスに関するイノベーション創出に向けた研究を開始しました。

② 「大学院入学金免除制度」の導入

大学院教育を受け、社会で高度専門人材として活躍する人材の育成を推進する一環として、本学を卒業し、本学大学院に進学するものを対象に、大学院入学金30万円を免除する制度の導入を決定しました（令和7（2025）年度以降の大学院入学より適用）。また、本学リカレント教育プログラム（履修証明プログラム）を修了された方も入学金免除の対象となります。

■ 大学案内、学部・学環の紹介パンフレットを刷新

（6）教学新機軸Ⅵ｜KONANクオリティの追求と創造

① ブランディング活動の推進

「KONANクオリティ」を追求し、そこから生み出される様々な成果や魅力、特色を学内外に浸透させるため、グローバル教養学環“STAGE”や進化型理系を中心にした情報発信、各種パンフレットの改訂や大学の魅力をわかりやすくまとめたブランディングページの設置等を行いました。

② オープンキャンパスの活性化

甲南大学のキャンパスを体感してもらえるよう、学生団体「KONAN Ambassadors」も活躍する等、全学を挙げてオープンキャンパスの活性化を引き続き推進しました。「KONAN彩り教育」をはじめ、「グローバル教養学環“STAGE”」、「進化型理系構想」等の魅力や特色を伝えるコンテンツを作成、参加者の拡大に向けた広報を実施し、令和6（2024）年度夏期・秋期オープンキャンパス合計で16,184名（昨年度比115.4％）に参加いただく結果となりました。

3. 高等学校・中学校

学園中期計画のもとで令和3(2021)年度に、「中期行動計画」を定め、4つの柱(「教育環境の整備」、「教育プログラムの開発・整備」、「高中運営の持続的発展」、「国際交流の推進」)に沿ったアクションプランを推進しました。

[令和6(2024)年度における主な取組み]

(1) 教育環境の整備

PBL(課題解決型学習)の展開を目的に視聴覚教室を改修しました。また、安全対策を目的に体育館等の木床改修、プール内の塗装塗り替え、大グラウンドの河川に係る劣化グレーチングの撤去を行ったほか、防犯対策で校舎内廊下にWebカメラを設置しました。情報インフラに関しては、劣化した教室のプロジェクターの改修、ネットワークの更新を実施し、情報セキュリティの強化を図りました。加えて、サポーターズ募金のⅡ期事業で、生徒から要望のあった小グラウンド内の照明設置が実現しました。

■ 改修した教室でのPBLの様子

(2) 教育プログラムの開発・整備

① ソフィア講演会の開催

令和6(2024)年6月に本校卒業生でエレコム株式会社会長の葉田順治氏に『甲南と卒業後の私』と題した講演をいただき、ご自身の体験をご紹介いただくとともに、ビジネスで成功するために大切なことを教えていただきました。また、令和6(2024)年9月には育友会主催の文化講演会を兼ねた形で、プロ野球・阪神タイガースの元監督　矢野燿大氏、元選手　糸井嘉男氏によるトークショーを開催。全校生徒と保護者がポートピアホテルの国際会議場に集い、「挑戦することの大切さと自分の可能性を信じる力」を親子で共に学びました。

■ ソフィア講演会(6月開催)

② 卒業生、外部人材を起用しての教育実践

「グローバルラボ」、「グローバル・スタディ・プログラム」では、外部講師によるスポット授業を実施、「キャリア教育」では各種職業の卒業生等を招いてのワークショップ、企業活動の見学や経営者としてご活躍する卒業生の話を伺う『OB企業を訪問』を実施しました。

③ 音楽鑑賞会の開催

令和6(2024)年9月の文化祭週間で行った音楽鑑賞会では、国内外でプロ活動を行っている本校卒業生を中心にジャズバンド「KONAN UNITED」が特別編成され、メンバーによる作曲や編曲のほか、本校校歌のジャズアレンジが披露され、トークショーも行われました。

■ 音楽鑑賞会(9月開催)

④ 読書教育の推進

読書教育の一環として、ビブリオバトル(書評合戦)に取組み、文化祭で甲南ビブリオバトルを実施、勝者は全国高校ビブリオバトル兵庫県大会に出場しました。

⑤ 震災関連教育活動

令和7(2025)年1月で阪神・淡路大震災から30年となることを踏まえて、令和6(2024)年度の教育活動テーマを「震災関連」とし、以下の取組みを行いました。

・震災関連教育活動の実施

英語や社会、道徳、家庭基礎、グローバルの授業およびLHRなどで震災関連の授業を行いました。

・震災関連講演会の実施

令和7(2025)年1月15日に全校生徒に対して山内校長による震災関連講演会を行い、本校生徒2名を含め、犠牲となった甲南学園関係者34名に対して黙祷を捧げました。

・居住地別集団下校の準備
もし、被災した場合、安全確認を行った上で居住地別に帰宅することになりますが、その準備として、居住地別にグループに分けて自己紹介をし合う活動を避難訓練後に実施しました。

⑥ 甲南中高大10年一貫教育の推進

■ 甲南大学でのLOFTアクティビティ

大学教員が国際関係・キャリア関係での出張講義、高三「法学入門」での大学生によるワークショップ、甲南大学に場所を移しての小論文指導と施設見学、Konan Interculture Day（大学の留学生と中学生のグループ学習）、中学生対象の甲南サイエンスデー（理工学部とフロンティアサイエンス学部での実験・講義）を実施、また、中高生がLOFTアクティビティに参加したほか、高校1年生のグローバル・スタディ・プログラム履修生が甲南大学とフィンドレー大学のCOILプロジェクト（協働オンライン国際学習）を受講しました。加えて、中高版サーティフィケイトの認定を行いました。

甲南大学入学者対象の引継式で大学クラブの紹介がなされたほか、KONAN未来サポーターズ募金事業の一環で、甲南大学に進学した学生が所属する各クラブと交流を深めました。

⑦ 生徒支援の推進

不登校傾向にある生徒の支援や特別な教育的ニーズのある生徒への支援を強化するために生徒支援委員会の活性化を図りました。具体的には生徒支援委員会の定例開催、ケース会議の実施、甲南中高ラーニング・サポーター（LS）活動の試験的実施、甲南中高LS活動では、教職を志す甲南大学のラーニング・サポーターの学生をチューターとして採用し、不登校傾向にある生徒の支援を行った他、体育の授業で特別なニーズのある生徒の対応を行いました。

（3）高中運営の持続的発展

コース改編がなされたメインストリーム・コースの1期生が入学し、同コースを核に中高大一貫プログラムを可視化する形で入試広報を展開、ホームページのデザインを学校案内の説明会と整合する形に変更したほか、Instagram等での情報発信の充実を図りました。また、令和6（2024）年12月に甲南大学岡本キャンパスで中学入試説明会を実施し、大学の施設見学を含め盛況を博しました。

（4）国際交流の推進

留学プログラムおよび姉妹校間での交換留学を実施するとともに、冬季休暇中には、本校卒業生の協力の下、アジア・スタディーツアーをマレーシアで実施しました。令和6（2024）年10月には、姉妹校のニュージーランドのクライスト・カレッジ校から日本ツアーに参加した同校の生徒と引率教員が来校、本校生徒宅でホームステイをしたほか、昼休みに同校生徒によるHAKAと本校応援団によるエールの交換を行いました。

また、国際教育部では、LL準備室を『English Zone（英語ゾーン）』として活用、受入交換留学生と協働し、利用者の増加を図ったほか、海外大学進学希望者に対しては、海外大学の情報を収集、支援しました。

■ アジア・スタディーツアー（マレーシア） ■ クライスト・カレッジ校とのエール交換 ■ 中学1年生はHAKAを教わり、合同で披露

4. 法人

学園中期計画のもとで令和2(2020)年度に定めた「中期行動計画」に基づき、KONAN-CFTおよび各部課室の取組みを推進しました。

[令和6(2024)年度における主な取組み]

(1) 学園運営の一層の健全化

私立学校法の改正(令和7(2025)年4月1日から施行)により、内部統制システム整備が求められていること等を踏まえ、内部統制システムの基本方針の策定(令和6(2024)年9月理事会)、基本方針に基づく、内部統制に係る必要な規程の策定および見直し等を実施しました(令和7(2025)年3月理事会) 。

また、学園中期計画推進にあたり学園本部会議や理事会において、学部・センター等各部局の現状と課題を共有し、今後の方向性を組織的に確認しながらPDCAサイクルを回しています。学園本部会議・理事会の資料および確認・決定事項については、グループウェアを活用し学内に共有することに加え、学園ニュースとして配信し、毎月全ての専任教職員に対して、情報を共有する取組みを継続しました。

日本私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード」については、改訂され追加された実施項目を精査し、理事会において全ての実施項目への対応を確認、日本私立大学連盟へ「遵守」の報告を行いました。

リスク管理については、重点取組みリスクへの対応策の実施、リスク管理委員会による半期ごとの実施状況の点検を行いました。

(2) 財政基盤の強化

学納金収入以外の財源多様化推進に関して、ステークホルダーの方々に継続的に本学をご支援いただくことを目的とした「KONAN未来サポーターズ募金」では、前年度の実績を大きく上回り、令和6(2024)年度末時点で721件、約3,033万円ものご寄付を頂戴いたしました。また、神戸市ふるさと納税「未来の神戸づくりに向けた大学等応援助成」においても、123件ものご寄付を頂戴しました。

(3) 社会との結節点としての広報機能の拡充

① 阪神・淡路大震災デジタルアーカイブ「学園が震えた日」の開設

阪神・淡路大震災から30年の節目に、将来の防災・減災に役立てることを目的として、長期にわたって保存してきた学園の震災に関する記録をデジタルアーカイブ「学園が震えた日」として公開しました。

■ デジタルアーカイブ「学園が震えた日」

② 朗らかにつながる学園の推進

令和6(2024)年12月1日に第5回目の開催となる「キッズフェスティバル2024WINTER」を実施し、地域の方々2,538名に来場いただきました。

また、令和6(2024)年12月8日には、大学都市神戸産官学プラットフォームの共創プロジェクトの一環として、本学がリーダー校となりSDGsをテーマにつながることを目的とした「KOBE SDGsマルシェ-SDGsチャレンジは楽しい-」を同プラットフォーム・神戸大学・神戸学院大学と共催で開催し、518名に来場いただきました。

その他、わたせせいぞう氏のイラストを用いたブランディングを展開し、式典等でのクリアファイル配布、JR神戸駅への看板掲出等も実施しました。

■ 甲南学園、甲南大学のイラストを公開

©わたせせいぞう／APPLE FARM INC.

(4) 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

利用者が安心してキャンパスを利用できるよう、施設の安全確保を最優先とし、中長期保全計画に基づく当該年度の工事を実施しました。

また、学生・教職員の防災意識の向上を目的に震度6弱以上の地震発生を想定した防災訓練を令和6(2024)年11月に実施し、西宮・ポートアイランドの各キャンパスにおける災害発生時の初動対応マニュアルの策定(令和6(2024)年12月学園本部会議)にも活かしました。

■ 防災訓練の様子

1. 財務の概要について

(1) 財務の基本的な考え方

学校法人が永続的に教育研究活動を展開するためには、財務面の安定が重要です。学校法人会計においては事業活動収支の経常収支差額がプラスであることが、財務面の健全性を計る指標として用いられています。そのような中、本学園では経常収支差額の均衡を意識しており、学生・生徒から頂いた学費を可能な限り教育・研究を中心とした支出に充当すべく、予算を編成しています。また執行に際しては入札や見積取得を丁寧に実施し、支出の抑制に取り組んでいます。さらに快適なキャンパスライフを送っていただけるよう施設面の更新・刷新を意識しながら、同時に再投資資金を確保するとともに、施設・情報化投資に資する中長期的なグランドデザインを描くことで、効率的な投資を計画しています。甲南に来て良かったと思っていただき、末永く在学生・卒業生とともにつながる学園であるために、無借金経営や学生・生徒に還元する財務構造を維持していきます。

(2) 決算について （5ページに令和6(2024)年度の決算の概要として要点を掲載しています）

現在、本学園では様々なCFTを立ち上げ、魅力ある大学・高等学校・中学校づくりに取り組んでいます。その財源確保のため平素の業務と支出内容を見直しておりますが、光熱水費の値上げや円安による洋雑誌費の高騰等、必要な支出には補正予算で財源を確保し対応しました。他方で入学志願者数が大学において前年度より増加したこともあり、経常収支差額はプラスとなり、事業活動支出は同収入に対し、96.1%となっています。

※ 各計算書の予算、決算等において、単位未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。
また、金額が千円未満の項目には「0」と表示されている場合があります。

2. 資金収支計算書(学園総括) (令和6(2024)年4月1日から令和7(2025)年3月31日まで)

資金収支計算書は、1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表すものです。

■ 収入の部 （単位：千円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	11,579,225	11,590,882	△11,657
手数料収入	604,466	764,049	△159,583
寄付金収入	182,100	263,990	△81,890
補助金収入	1,916,827	1,938,742	△21,914
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	328,586	318,999	9,587
受取利息・配当金収入	281,760	531,195	△249,435
雑収入	358,015	360,966	△2,951
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,822,179	1,643,967	178,212
その他の収入	3,577,147	4,489,949	△912,802
資金収入調整勘定	△2,152,527	△2,140,632	△11,895
前年度繰越支払資金	10,267,241	10,267,241	
収入の部合計	28,765,019	30,029,347	△1,264,327

■ 支出の部 （単位：千円）

科目	予算	決算	差異
人件費支出	7,750,561	7,722,606	27,955
教育研究経費支出	4,901,217	4,404,594	496,623
管理経費支出	781,190	1,057,303	△276,113
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,142,871	1,041,300	101,571
設備関係支出	442,391	430,929	11,462
資産運用支出	2,896,881	4,715,300	△1,818,419
その他の支出	989,511	1,075,837	△86,326
〔予備費〕	0	0	0
資金支出調整勘定	△595,596	△600,993	5,397
翌年度繰越支払資金	10,455,993	10,182,471	273,522
支出の部合計	28,765,019	30,029,347	△1,264,327

3. 事業活動収支計算書(学園総括) (令和6(2024)年4月1日から令和7(2025)年3月31日まで)

事業活動収支計算書は、企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)および収益事業に係る活動による「教育活動外収支」、また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動による「特別収支」、そしてそれら以外の「教育活動収支」に分けて、収支の均衡を表示します。

(単位:千円)

科目			予算	決算	差異	比率(%)
教育活動収支	事業活動収入					
		学生生徒等納付金	11,579,225	11,590,882	△11,657	73.3%
		手数料	604,466	764,049	△159,583	4.8%
		寄付金	177,743	248,099	△70,356	1.6%
		経常費等補助金	1,872,594	1,894,515	△21,920	12.0%
		付随事業収入	328,286	318,659	9,627	2.0%
		雑収入	358,015	362,499	△4,484	2.3%
		教育活動収入計	14,920,329	15,178,702	△258,373	96.0%
	事業活動支出					
		人件費	7,760,928	7,692,879	68,049	48.7%
		教育研究経費	6,720,429	6,203,702	516,726	39.2%
		管理経費	799,153	1,075,265	△276,111	6.8%
		徴収不能額等	0	112	△112	0.0%
		教育活動支出計	15,280,510	14,971,958	308,552	94.7%
	教育活動収支差額		△360,181	206,744	△566,925	
教育活動外収支	事業活動収入					
		受取利息・配当金	281,760	530,591	△248,831	3.4%
		その他の教育活動外収入	300	340	△40	0.0%
		教育活動外収入計	282,060	530,931	△248,871	3.4%
	事業活動支出					
		借入金等利息	0	0	0	0.0%
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
		教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
	教育活動外収支差額		282,060	530,931	△248,871	
経常収支差額			△78,121	737,676	△815,796	
特別収支	事業活動収入					
		資産売却差額	0	0	0	0.0%
		その他の特別収入	98,590	97,519	1,071	0.6%
		特別収入計	98,590	97,519	1,071	0.6%
	事業活動支出					
		資産処分差額	0	222,053	△222,053	1.4%
		その他の特別支出	0	0	0	0.0%
		特別支出計	0	222,053	△222,053	1.4%
	特別収支差額		98,590	△124,535	223,125	
[予備費]			0		0	
基本金組入前当年度収支差額			20,469	613,141	△592,672	
基本金組入額合計			△1,608,443	△1,488,469	△119,974	△9.4%
当年度収支差額			△1,587,974	△875,328	△712,646	
前年度繰越収支差額			△17,504,501	△17,504,501	0	
基本金取崩額			0	131,764	△131,764	
翌年度繰越収支差額			△19,092,475	△18,248,064	△844,410	
(参考)						
事業活動収入計			15,300,979	15,807,152	△506,172	100.0%
事業活動支出計			15,280,510	15,194,011	86,499	96.1%

4. 貸借対照表(令和7(2025)年3月31日)

貸借対照表は、決算日時点の財政状態を表します。　(単位:千円)

科目	令和6年度末	令和5年度末	増減
固定資産	81,935,985	81,452,442	483,542
有形固定資産	55,413,643	55,938,802	△525,158
土地	22,413,967	22,413,967	0
建物	24,571,981	25,149,587	△577,606
構築物	1,292,046	1,339,921	△47,875
教育研究用機器備品	1,662,993	1,589,512	73,481
管理用機器備品	7,796	11,347	△3,551
図書	5,405,604	5,430,039	△24,436
車輌	468	468	0
建設仮勘定	58,790	3,960	54,830
特定資産	26,316,054	25,292,753	1,023,301
第2号基本金引当特定資産	855,738	39,738	816,000
第3号基本金引当特定資産	5,177,019	5,160,561	16,458
退職給与引当特定資産	2,153,896	2,168,759	△14,864
償却引当特定資産	11,922,434	11,735,991	186,443
理系学部設備充実費引当特定資産	196,554	181,755	14,799
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産	1,746,000	1,984,468	△238,468
大学将来計画準備引当特定資産	974,823	974,823	0
平生太郎基金引当特定資産	3,015,084	2,771,063	244,021
岡崎一雄基金引当特定資産	1,943	3,941	△1,998
八木愼二基金引当特定資産	180,268	180,268	0
立野純三基金引当特定資産	18,861	17,951	910
中高教育充実引当特定資産	73,435	73,435	0
その他の固定資産	206,287	220,888	△14,601
電話加入権	4,609	4,609	0
施設利用権	0	0	0
ソフトウェア	1,877	6,212	△4,335
有価証券	10,500	10,500	0
長期貸付金	36,616	46,991	△10,376
出資金	25,912	25,802	110
敷金・保証金	126,773	126,773	0
流動資産	10,703,656	10,830,059	△126,404
現金預金	10,182,471	10,267,241	△84,770
未収入金	274,510	385,263	△110,754
前払金	244,755	176,854	67,901
仮払金	135	148	△13
立替金	1,785	552	1,232
資産の部合計	92,639,640	92,282,502	357,139

科目	令和6年度末	令和5年度末	増減
固定負債	4,400,990	4,469,283	△68,293
長期借入金	0	0	0
長期未払金	93,199	131,764	△38,565
退職給与引当金	4,307,791	4,337,519	△29,728
流動負債	2,511,597	2,699,307	△187,709
短期借入金	0	0	0
未払金	463,654	527,345	△63,691
前受金	1,644,367	1,870,500	△226,134
預り金	403,577	301,461	102,115
負債の部合計	6,912,587	7,168,590	△256,002
科目	令和6年度末	令和5年度末	増減
基本金	103,975,117	102,618,413	1,356,705
第1号基本金	96,914,361	96,594,114	320,247
第2号基本金	855,738	39,738	816,000
第3号基本金	5,177,019	5,160,561	16,458
第4号基本金	1,028,000	824,000	204,000
繰越収支差額	△18,248,064	△17,504,501	△743,563
翌年度繰越収支差額	△18,248,064	△17,504,501	△743,563
純資産の部合計	85,727,053	85,113,912	613,141
負債および純資産の部合計	92,639,640	92,282,502	357,139

■ 有価証券の時価情報[総括表](令和6年度(令和7(2025)年3月31日))

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	5,646,695	17,879,142	12,232,447
(うち満期保有目的の債券)	(200,000)	(205,200)	(5,200)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	5,742,937	5,381,255	△361,682
(うち満期保有目的の債券)	(3,400,000)	(3,237,047)	(△162,953)
合計	11,389,632	23,260,396	11,870,764
(うち満期保有目的の債券)	(3,600,000)	(3,442,247)	(△157,753)
時価のない有価証券	10,500		
有価証券合計	11,400,132		

5. 財務比率の推移(学園総括) (令和元(2019)年度から令和6(2024)年度まで)

■ 貸借対照表関係

比率	算式 (×100)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	88.3 (87.3)	88.2 (86.5)	88.0 (86.1)	88.3 (86.4)	88.3 (85.9)	88.4
固定比率	固定資産 / 純資産	96.0 (99.6)	95.9 (98.5)	95.8 (98.0)	95.7 (98.1)	95.7 (97.4)	95.6
固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	91.1 (92.0)	91.0 (91.3)	91.1 (90.9)	91.1 (91.2)	90.9 (90.5)	90.9
流動比率	流動資産 / 流動負債	380.6 (250.5)	377.7 (255.5)	357.4 (262.9)	390.8 (261.1)	401.2 (279.4)	426.2
流動負債構成比率	流動負債 / 総負債＋純資産	3.1 (5.1)	3.1 (5.3)	3.4 (5.3)	3.0 (5.2)	2.9 (5.0)	2.7
総負債比率	総負債 / 総資産	8.1 (12.4)	8.0 (12.2)	8.1 (12.2)	7.7 (11.9)	7.8 (11.8)	7.5
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 / 退職給与引当金	50.0 (72.6)	50.0 (72.7)	50.0 (72.9)	50.0 (73.3)	50.0 (74.0)	50.0
償却引当特定資産保有率	償却引当特定資産 / 減価償却累計額	21.2 (17.2)	22.9 (18.7)	25.6 (20.1)	27.3 (20.3)	28.9 (19.8)	28.8

[補足説明]

・( )内は全国理工他複数学部法人平均
・「固定資産」＝有形固定資産＋特定資産＋その他の固定資産
・「純資産」＝「自己資金」自己資金は基本金＋繰越収支差額

■ 事業活動収支関係

比率	算式（×100）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	79.3 (76.0)	77.0 (75.5)	76.1 (74.7)	76.5 (74.9)	75.7 (73. 9)	73.8
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	3.0 (2.2)	1.9 (2.6)	1.5 (1.7)	1.7 (2.2)	1.2 (2.8)	1.9
経常寄付金比率	教育活動収入の寄付金 / 経常収入	1.2 (1.4)	1.3 (1.8)	1.0 (1.7)	1.0 (1.5)	1.0 (1.6)	1.6
補助金比率	補助金 / 事業活動収入	9.6 (11.8)	12.2 (13.3)	13.2 (13.7)	12.1 (13.5)	13.0 (13.7)	12.3
経常補助金比率	教育活動収入の補助金 / 経常収入	9.6 (11.6)	11.8 (13.2)	12.9 (13.5)	11.9 (13.4)	12.2 (13.8)	12.1
人件費比率	人件費 / 経常収入	55.7 (52.9)	54.7 (51.5)	53.5 (50.9)	52.4 (50.4)	51.9 (49.2)	49.0
人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	70.2 (69.7)	71.0 (68.2)	70.2 (68.1)	68.5 (67.3)	68.6 (68.5)	66.4
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	36.7 (34.5)	40.3 (35.7)	39.1 (34.6)	40.8 (36.8)	41.0 (37.1)	39.5
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	5.3 (7.8)	4.2 (7.3)	4.2 (7.4)	4.4 (7.7)	4.9 (7.8)	6.8
事業活動支出比率	事業活動支出 / 事業活動収入	97.6 (97.4)	99.96 (94.0)	96.7 (92.8)	97.2 (94.6)	97.8 (94.6)	96.1
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	1.5 (10.5)	1.5 (9.2)	2.9 (9.6)	4.3 (8.4)	4.5 (9.1)	9.4

［補足説明］

・(　)内は全国理工他複数学部法人平均
・「経常収入」＝教育活動収入＋教育活動外収入

V.基本データ

1. 学生数・生徒数(令和6(2024)年5月1日現在)

■ 大学院

	修士課程			博士後期課程		
	入学定員	収容定員	実員	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	26	52	21	10	30	6
自然科学研究科	39	78	86	8	24	7
社会科学研究科	20	40	9	3	9	14
フロンティアサイエンス研究科	15	30	24	3	9	11
合計	100	200	140	24	72	38

■ 大学

	入学定員	収容定員	実員
文学部	405	1,620	1,866
理工学部	155	620	712
経済学部	345	1,380	1,577
法学部	330	1,320	1,575
経営学部	345	1,380	1,624
知能情報学部	120	480	562
マネジメント創造学部	170	680	785
フロンティアサイエンス学部	45	180	199
グローバル教養学環	25	100	24
合計	1,940	7,760	8,924

■ 高等学校・中学校

	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	570
中学校	175	525	530

2. 留学者数(令和6(2024)年度)

	海外への派遣	海外からの受入
大学	241	180
高等学校・中学校	104	94

3. 入学試験状況(令和7(2025)年度入学試験)

■ 大学院

	修士課程			博士後期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学研究科	17	14	11	5	4	3
日本語日本文学専攻	4	3	2	0	0	0
英語英米文学専攻	4	4	4	0	0	0
応用社会学専攻	5	3	2	0	0	0
人間科学専攻	4	4	3	5	4	3
自然科学研究科	75	73	71	1	1	1
物理学専攻	19	19	19	0	0	0
化学専攻	17	16	16			
生物学専攻	20	19	19			
生命・機能科学専攻				0	0	0
知能情報学専攻	19	19	17	1	1	1
社会科学研究科	14	10	7	0	0	0
経済学専攻	10	8	6			
経営学専攻	4	2	1	0	0	0
フロンティアサイエンス研究科	24	24	23	1	1	1
生命化学専攻	24	24	23	1	1	1
合計	130	121	112	7	6	5

■ 大学

	一般選抜入試			一般選抜入試以外		
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	6,538	6,000	1,107	1,568	1,549	357
日本語日本文学科	1,179	1,080	168	256	254	60
英語英米文学科	1,123	1,022	233	307	303	106
社会学科	1,409	1,336	238	346	341	72
人間科学科	1,808	1,628	303	465	459	76
歴史文化学科	1,019	934	165	194	192	43
理工学部	2,311	2,076	695	361	349	154
物理学科	886	812	244	134	130	41
生物学科	808	724	215	108	105	50
機能分子化学科	617	540	236	119	114	63
経済学部	4,234	3,935	729	1,326	1,293	329
法学部	3,666	3,284	890	718	708	311
経営学部	4,295	3,867	710	1,158	1,138	320
知能情報学部	1,558	1,355	383	323	309	121
マネジメント創造学部	1,922	1,741	257	804	767	204
フロンティアサイエンス学部	702	632	182	148	134	70
グローバル教養学環	155	146	13	117	109	45
合計	25,381	23,036	4,966	6,523	6,356	1,911

■ 高等学校・中学校

	志願者数	受験者数	合格者数
高等学校	22	22	21
中学校	861	633	405

4. 学位授与数(令和6(2024)年度内に授与した数)

学士	
文学部	400
日本語日本文学科	69
英語英米文学科	89
社会学科	92
人間科学科	95
歴史文化学科	55
理工学部	161
物理学科	55
生物学科	59
機能分子化学科	47
経済学部	352
法学部	370
経営学部	365
知能情報学部	121
マネジメント創造学部	179
フロンティアサイエンス学部	36
合計	1,984

修士	
人文科学研究科	5
日本語日本文学専攻	1
英語英米文学専攻	1
応用社会学専攻	0
人間科学専攻	3
自然科学研究科	33
物理学専攻	7
化学専攻	13
生物学専攻	5
知能情報学専攻	8
社会科学研究科	5
経済学専攻	4
経営学専攻	1
フロンティアサイエンス研究科	7
生命化学専攻	7
合計	50

博士	
人文科学研究科	0
日本語日本文学専攻	0
英語英米文学専攻	0
応用社会学専攻	0
人間科学専攻	0
自然科学研究科	1
物理学専攻	0
生命・機能科学専攻	0
知能情報学専攻	1
社会科学研究科	2
経営学専攻	2
フロンティアサイエンス研究科	2
生命化学専攻	2
合計	5

5. 卒業生累計数(令和7(2025)年3月31日現在)

学部	116,947
大学院(修士)	2,872
大学院(博士)	193

旧制中学校・旧制高等学校	1,888
新制高等学校	13,476

6. 卒業生の就職状況(令和6(2024)年度卒業)

(1) 就職率(就職者数÷就職希望者数)

学部卒	98.9%

大学院修了(修士・博士)	98.1%

(2) 業種別の就職割合

■ 学部卒

サービス業	22.2%
メーカー	17.2%
卸・小売	19.4%
金融・保険業	12.9%
建設・不動産業	8.5%
公務員・教員	6.8%
情報通信業	13.0%

■ 大学院修了(修士・博士)

サービス業	14.6%
メーカー	58.3%
卸・小売	0.0%
金融・保険業	0.0%
建設・不動産業	6.3%
公務員・教員	6.3%
情報通信業	14.6%

(3) 従業員規模別の就職割合

■ 学部卒

3,000名以上	31.9%
1,000名以上3,000名未満	23.5%
500名以上1,000名未満	14.4%
500名未満	30.3%

■ 大学院修了(修士・博士)

3,000名以上	36.2%
1,000名以上3,000名未満	21.3%
500名以上1,000名未満	10.6%
500名未満	31.9%

学校法人
甲南学園

甲南大学
甲南大学大学院
ホームページ　https://www.konan-u.ac.jp

◎岡本キャンパス
〒658-8501　兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL(078)431-4341(大代表)

◎西宮キャンパス
〒663-8204　兵庫県西宮市高松町8-33
TEL(0798)63-5741

◎ポートアイランドキャンパス
〒650-0047　兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL(078)303-1457

甲南高等学校・中学校
〒659-0096　兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL(0797)31-0551(代表)
ホームページ　https://www.konan.ed.jp

甲南大学ネットワークキャンパス東京
〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー10F
TEL(03)6266-9520
ホームページ　https://www.konan-u.ac.jp/tokyo/

ウェブサイトによる「教育情報」の公開について

本学園では、「学校教育法施行規則第172条の2」に基づき、ウェブサイトにて「教育情報」を公開しています。詳しくは、甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧下さい。

発行 令和7(2025)年6月
この冊子に関するお問い合わせは、
以下までお願いいたします。
〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
学校法人甲南学園　総務部総務課
TEL(078)431-4341(大代表) FAX(078)435-2548
e-mail　sohmu@adm.konan-u.ac.jp

KONAN GAKUEN